
君の笑顔の守り方。

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の笑顔の守り方。

【Nコード】

N1552M

【作者名】

【あらすじ】

大好きな彼女・桜が、ある日交通事故で死んでしまう。

大好きだった桜が死んでしまった

廃人になってしまう拓耶。

そんななかで桜に会うために屋上から飛び降りる。

拓耶は、桜に会えるのか？！

（前書き）

なんか、ぐっだぐっだです。

三回目の投稿・・・？？

死ネタですが、結構いい感じで仕上がってると思いますw w
よろしくおねがいします。

と、上から怒ると・・・。

「えへへｗｗでもさ、拓耶。早くしないと、遅刻しちゃうよ?？」

と、またまた大声で叫んでくる。

「はあ・・・。まったく・・・。」

そうやってため息をつくと・・・。

「分かったよ!!急ぐから、待ってるよ?学校までチャリで送ってやる!!!」

そうやって言うと、嬉しそうに笑った。

・・・
・・・
・・・

桜と俺は、中学校からの仲で、家も隣だった。

付き合いはじめたのは、中二の夏。

友人たちが、俺らの仲の良さと、お互いが両思いなのを知ってくつつけようとしたのが始まりだった。

お互いが、初彼・初彼同士で。

何をどうしたらいいのか分からなかったけど・・・。

『愛し合ってたなら、わかんなくっても、だんだん分かり始めるよね

WW?』

って、笑う桜が異常に可愛くって……。優しくって……。

絶対に、こいつを一生守って、愛していこうって、誓ったんだ……。

……………

『ぶる……。』

こんな時間に誰だろう???

今は深夜……。

今日は、学校も終わって、部活で疲れたけど。桜と帰ってきて癒えて……。

そんな一日だった……。

いつも通りの幸せな一日。

でも……。なんだろう??この……。胸騒ぎ……。

今は、深夜二時。

なんか、こんな時間にかかってきたから、変な思いをしたのかな??

『がちゃ。』

「はい。稲見^{いみな}です。あつ！！桜さんのお母様ですか？！」

なんだ。桜のお母さんかwwうつわ。緊張するなああ。

っていうか、なんだよ。俺の勘。当たらねえなww

そんな風にへらへらしてたのが間違いだった。

次の言葉に俺は絶句と、妙に冷静な俺を感じるなんて思いもしなかったんだ。

「え？？桜が・・・死んだ？？」

(あ・・・俺の勘・・・当たるじゃん・・・)

妙に冷静な俺。

そして、感じる孤独感。

でも・・・。桜・・・？？桜？嘘だろ・・・。桜？

なんで・・・。

『・・・ごめんね・・・稲見君・・・わつたしも・・・本当に悔しくって・・・。雨のせいで、視界が悪くなつててね・・・。曲がってくる車に・・・ひ・・・かれて・・・。即死で・・・。本当に、ごめんなさいね。桜を愛してくれてたのに・・・。こんな・・・悲しい・・・別れか・・・た・・・。本当にごめんなさいね・・・。今まで本当にありがとうねえ・・・。』

桜のお母さんの鳴き声が聞こえる。

おかしいな……。妙に遠くに聞こえるのに……。

妙に近くに聞こえるんだ……。

悲しい……。悲しい……。悲しいよ……。

桜……。

……

葬式にもお通夜にも出た。

悲しい……。悲しい……。

でも、まったく感じられないんだ。

桜が死んだ事実。

だって、朝目を覚ます時には、君の近所迷惑だろっていつほどの大きな声が聞こえて……、

でも……。窓を開けて下を見ても誰もいなくて。

玄関を開けると、いつも笑ってる君がいるんじゃないかって思って玄関開けて。

そういえば、今日は雨が降るんだっただな。絶対あいつ、かつぱ持っていないぞ。っておもって、あいつの分まで用意して……。

知らない二つのかつぱをみて、今日は。桜やすみなんだっけ？…って思っ……。

学校に行くときには、チャリが妙に軽く感じるくせに、妙に誰かが乗っている感じもするんだ……。

そして、学校にいくと、あいつの席に花瓶が置いてある。

どうして……花瓶が置いてあるの？？

だって、そこは桜の席なんだ。

桜がいるんだ……笑ってる桜が見えるんだよ……。

ねえ。桜。どうしたら、君に会える？？

どうしたら、君のあの笑顔が見られる？？

ねえ……。答えてよ。桜……。

「なあ。最近、拓耶やばいよな。」

「え？…ああ…うん。廃人……って感じ。」

そんな会話なんて、耳にも入らなかった。

暗い……。真っ暗だ。

ねえ。桜。僕に、光を与えて……。

「あ……そつか。」

そう思うと突然、俺の中である考えが浮かんだ。

（そうだ。桜が死んだなら、僕も死ねば会えるんじゃないか？）

そつか。そうだ……。

桜に会える……。

俺はそう思うと、一目散で屋上までの階段を駆け上がる。

屋上は危ないからって閉鎖されてたけど、奇跡的に開ける事が出来た。

『ぎいいい……。』

ああ……。蒼いなあ……。

そつか。そこに桜がいるんだね。

だから、妙に明るく感じるんだ……。

桜。。。。今から会いに行きます。

『ひゅつ。』

と、フェンスを乗り越える。

teny . . .

「拓耶っ！！行くな！！！！拓耶！！死んじやうだろ？！」

（・・・ああ。時棹ときざおか・・・。「死んじゃう？？」違うよ。僕は、会いにいくんだ。桜に・・・そこで、一生桜とすごすんだ・・・）

「ふつ・・・」

そうやって笑うと、俺はフェンスから手を離し、屋上から飛び降りた。

「拓耶ああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！」

大声で叫ぶ時棹の声……。

走馬灯のように駆け巡る思い出の数々。

・
・
・
桜
・
・
・
○

そして、それが終わろうとした瞬間。

拓耶以上に大きく聞こえた声があった。

「た・く・や・。」

「！！桜？！」

そう叫んだ瞬間。

ふわっと体が浮いた。

そして、見えた。

僕を支える桜の体と笑顔の桜。

「桜・・・こんなところにいたんだね。」

（今から行くから・・・。）

「・・・るな・・・。」

「へ？」

「来なくて・・・いいから。もう・・・大丈夫だから。ねえ。拓耶。お願い。幸せに・・・幸せに生きて・・・。私は、もうこの世には生きていけないけれど・・・。それでも。それでも。幸せに・・・。お願い・・・。」

そう、言つとふつと姿を消して、俺の目の前にあるのは陸上部が運んでいるマット。

そして。

『どすん。』

という、鈍い音の後に感じる激痛。

「あっ……。痛い……。」

陸上部のやつらはびっくりして、そこから離れたみたいだけど、俺は、そのマットの上で寝っ転がりながら両手を見た。

あの時。確かに感じたぬくもり。

最初で最期のキスと、両手の温かさ。

そして……。最期の

「ありがとう……。」

桜。こちらこそ。いままでありがとう。助けてくれてありがとう。

今まで、俺は桜と過ごせて幸せでした。

きつと……。ずっと……。これからも。

……。……
一ヶ月後……。

「お〜い。拓耶。退院おめつとw」

「ありがとうww」

「もあ〜。びっくりしたんだからね?」

「あははwwごめんねww」

あの後、俺はあまりの痛さに気を失い、先生達が大騒ぎをして、最終的に救急車に運ばれて、すぐに手術。奇跡的に大怪我はしなかったものの、？週間気を失ってて、精神状態も不安だったので、結果。一か月の入院となった。

正直言つて、ダサすぎる結果になったわけだけどww

でも。桜、君のおかげで助かったんだ。

ありがとう。

ねえ？桜、今君はどこにいるの？どこでなにをしてて、何をして笑ってる？？

っていうか、笑ってる？？

俺さ、桜の笑顔が大好きだから、桜。お前がどこにいても、なにをしても、笑っててほしいよ。

ねえ？桜。どこに行けば君に会える？君の笑顔に出会える？？君の笑顔を守る？

・・・わかってるよ。

君への会いかたは、俺が笑うこと。

君の笑顔の会いかたは、俺が泣かないこと。

そして・・・。

君の笑顔の守り方。

それは、俺が幸せに生きていくことなんだよね。

分かってるよ。

でもね。桜。俺、まだ。桜から立ち直れそうにないからさ。

俺の幸せは、桜の幸せを祈って。桜の彼氏でいること。

でもいいかな？・

別れる気はさらさらないんだけど、もしも、別れる時が来たら、ちゅんと伝えに行きます。

ねえ。桜？・こんな結果になってしまったけど、これが俺の幸せだから。桜の思い通りにならなくても、これが俺の幸せだから、笑って。見守ってて。

俺は、君の笑顔を守るから。

（後書き）

えっと・・・

すみません。

変な終わり方ですみません・・・。

自分てきには、終わり方はよかった・・・かな？？

最期まで読んでくださりありがとうございましたw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1552m/>

君の笑顔の守り方。

2011年1月15日23時35分発行